

FDに関する報告書

経営学部の学生に対する英語レベルテストの実施について

玉山 和夫

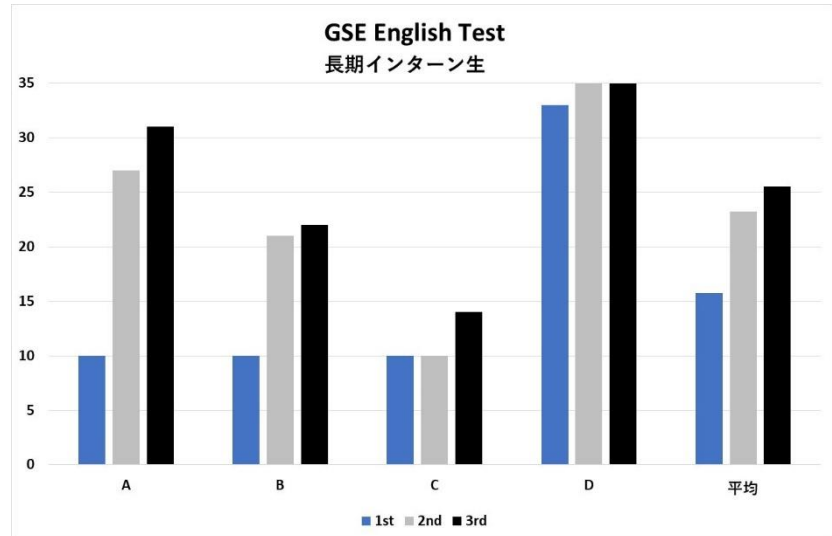
2018年から2019年にかけて、経営学部では、経営学部のグローバル科目を履修する2年生（吉川ゼミナール、橋長ゼミナール）と後志総合振興局のインターンシッププログラム「ニセコ留学」に参加する学生に対し、英語テストを実施した。テストの点数は、学生が外国人と接するような仕事に就く際の、履歴書作成などに役立てることができる。また、テストの結果は、本学の教員が学生達の英語レベルや成長を把握する上で役立てていくことができるものと考えられる。

英語テストは、Pearsonが提供する「Global Scale of English (GSE)」により実施し、「1.低価格、2. 4つのスキルを測る、3、CEFRに基づく、4. パッケージプログラムにより1年間を通じて3つのテストが実施される」という内容で構成されている。2018年5月27日、FD委員会では英語テスト用に30ライセンスを取得し、24名の選ばれた学生たちが初回のテストに参加した。初回の英語テストは6月13日（水）に実施された。その後、インターンシップへ出発する前の10月に2回目のテストが実施され、翌年3月のインターンシップ終了後には3回目のテストが実施された。テストはCFERのA1レベルとなるSpeaking、Listening、Writing、Readingの4つの英語スキルに相当しており、ウェブサイト「<https://myenglishlab.com>」にて行われた。

テストの結果については次に示すとおりである。受験者24人中、22人が10点もしくは10点未満、残りの2名が17点と33点という結果であった。4ヶ月間以上に渡って彼らの英語能力を高めるための取り組みを英語授業等で実施し、10月までには彼らの英語能力は向上した。そして10月には、12人の学生たちが10点以上を獲得することができた。しかし、ほかの10人の学生たちは引き続き10点もしくは10点未満という結果となり、さらに2人の学生がテストの受験を取りやめた。ニセコインターンシップへの参加を希望しない学生たちについては、テストの受験を求めなかった。長期（4か月）のインターンシップに参加した4名の学生たちの成績は、平均して10ポイント向上した。個別には21ポイント向上したものもある。

GSE Test Result

No	Score		
	1st test	2nd test	3rd test
1	10	24	35
2	10	27	31
3	10	21	22
4	10	10	14
5	10	14	
6	10	10	
7	10		
8	10	10	
9	10	10	
10	10	10	
11	10		
12	10	15	
13	10	10	
14	10	10	
15	10	10	
16	10	16	
17	10	10	
18	10	15	
19	10	10	
20	10	17	17
21	10	15	
22	10	16	
23	33	35	35
24	10		
Average	11	15	26



今後の検討すべきこととして、以下はテストに関する利点および欠点について評価したものである。

利点 (強みと考えられる点)

1. 1年間にかけて1人の学生に3回のテストが実施される
2. テストは4つの能力「Listening、Speaking、Writing、Reading」を測る
3. 他の英語テストと比較して適正な価格である
4. 本学の教員が本学のコンピュータ教室等から管理を行うことができる
5. 5分程度でテストの結果が出力されるため、学生への指導を容易に行うことができる

欠点 (弱みと考えられる点)

1. 最も低いレベルのテスト (15-30) を行っているにも関わらず、経営学部の学生達は難しいと受け止める場合があり、多くの学生たちが10点未満という結果となった。そのため、モチベーションの低下へと繋がってしまった。
2. 35点以上を獲得した学生がいなかった (最高点100点)
3. テストでは特徴的なフィードバックを与えることができない (正答、誤答など)
4. テストは英検やTOEICの内容と十分に適合していない
5. テストは2020年度から開始される新しい大学入試センター試験での8つの科目の1つの代替にはならないことが明らかになっている。

結論

以上の理由により、我々は、本学で実施している英語プレイスメントテスト I・II や英語ジャーナルライティングに代わり、FD の予算として placement test と英語 writing を組み合わせた in-house テストを採用すること推奨したい。オンラインでの英語ジャーナルライティングを実施していく上では、2019 年春頃に利用環境を用意し、検証作業を行うことが必要である。

さしあたり必要な費用については、経営学部内の、裁量的な予算費目でカバーできるものかどうか、検討したい。